

年月日

23

09
08

ページ

21

NO.

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(210)

とで、研究環境を改善してきました。革新的なイノベーションを創造できる人材の育成を新たな目標としている。

07年の計画での取り組みを評価しつつ、15年にナジブ首相（当時）が「マレーシア高

東南アジア諸国連合（ASEAN）の中で、マレーシアは比較的早い1980年代から、科学技術・イノベーション分野の国家戦略を活発に策定・更新してきた。英QS「世界大学ランク」での数年来の躍進に見られるように、マレーシアの大学は今、国際的な存在感を強めている。(図)

政策の転換点

2007年に高等教育が定めた「国家高等教育戦略計画」から、マレーシアの大学改革は本格化した。人材獲得と国際社会でのプレゼンス強化のた



科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター フェロー(科学技術外交グループ)

小林 尚矢

マレーシア大学改革の今

ASEANの科学技術動向 ⑧

まだ、国立マラヤ大学などの5校を研究拠点大学に設定し、公的資金を優先投下することで、研究成績などを発揮を柱とする第11次国家5年計画の諸項目を評価し、それがに応じた資金を政府が支出する仕組みが提

高等教育を改善のため、マレーシアの大学の国際的な存在感の強化へ

マレーシアの大学の国際的な存在感の強化
大学ランキングの躍進
例: 国立マラヤ大学
146位(2015年)
↓
65位(2023年)

国内での人材育成の機能強化へ

マレーシアにおける大学改革の潮流

2007年 国家高等教育戦略計画

- マレーシアを国際的な「教育ハブ」へ
- 研究拠点大学への公的資金の優先投下

2015年 マレーシア高等教育計画(2015-2025)

- 革新的なイノベーションを創造できる人材の育成
- 高等教育機関の運営方法の根本的な変革

2023年 カレド高等教育大臣のイニシアチブ

- 政策を点検する国家検討委員会の設置
- 大学院課程への投資増大、私学セクターの拡張、技術職業教育訓練(TVET)システムの見直しなど

出典:マラヤ大学の順位については各年のQS World University Rankingsを参照



得にとどまらず、革新唱された。同時に、政ら、高等教育省のカレターの拡張、技術職業らに、現行政策の改善ド大臣は、今年1月の教育訓練(TVET)案を検討するための国演説で、大学院課程へシステムの全面的な見家検討委員会を設置の投資増大、私学セク直しなどを掲げた。さし、高等教育計画の改善を図る見通し

大学改革の帰結をめぐっては、長期的な視野での検証が必要だろう。改革の続く日本への示唆を得るためにも、マレーシアの改革動向を注視していくべきだ。

「ASEAN地域の科学技術動向」の連載は今回がひと区切りとなるが、友好協力50周年を機とした日域の深化が期待される中、今後の展開についていれば幸いである。